



10/13

企業説明会(企業から学生へ課題の説明)

課題1 移動式建築「スマートモジュール」の活用について

アーキビジョン21の主力商品「スマートモジュール」は、海上輸送コンテナと同サイズの高断熱・高気密・三重サッシを備えた移動可能な木造建築物であり、顧客へレンタル後、リユースが可能。これまでに事務所、従業員宿舍、店舗、応急仮設住宅等様々な用途に使用されてきたが、これらの事例以外にスマートモジュールの特性を生かした活用方法を探って欲しい。



ZOOM開催



後日、工場見学や意見交換を実施

課題2 災害時仮設建設のストックについて

「スマートモジュール」は、災害時の応急仮設としての需要が増えていることから、平常時より多数ストックしておくことが必要となる。そうしたストックをただ遊ばせておくのではなく、災害時にすぐ転用できることを前提とした平常時の有効的な活用アイデアを提案して欲しい。

11/17

中間報告会(学生から企業へ検討状況を説明)

提案

チーム1

- ・ライダーハウス
- ・廃校利用増設オプション
- ・カラオケ、ライブスタジオ

チーム2

- ・野外スポーツ施設のベンチ、観客席、本部席

チーム3

- ・サブスク別荘
- ・ウィンタースポーツロッジ
- ・ワカサギ釣り場の施設

意見

- ・運用は委託会社が実施するので、弊社がモジュールを提供するにあたってのメリット・デメリットは何かを考えて欲しい
- ・スタジアムの規模はどの程度で、競技や規模はどのようなものかイメージ図があると良い
- ・ワンシーズンごとに撤去して再設置ではコストがかかるので、常設した場合のオフシーズン利用方法を検討いただきたい

12/15

最終報告会(学生から企業へ解決策の最終提案)

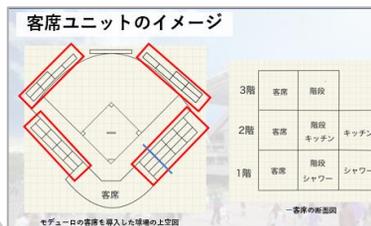
チーム1

「長距離トラックドライバーのための休憩場整備」
(災害時には復旧物資運搬の待機場として活用)



チーム2

スポーツ産業活性化を目指す
地方自治体に向けた
「スマートモジュールスタジアム」



チーム3

・日帰りスキー客がターゲット
「スキー場近くの温泉施設」
・モジュールの機密性を生かした「喫煙所」



事業参加後のコメント(一部抜粋)

学生感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none">○ 企業様に提案するにあたり色々な案を出してみたが、具体性やコスト面が問題だった。実際に利用いただくことを考えた時、アンケート調査の重要性を理解でき、有意義に活動できた。○ 「学生らしさのあるアイデア」というところで、まず学生らしさとは？と悩み、情報を集め、どう煮詰めていくかということが大変だったが、なんとか形にできたと思う。○ 沢山のアイデアや提案を出させていただく中、企業様も自分の会社のことを深く知り、そういう方々からご意見・ご指摘いただいたり提案させていただいたりしたことは貴重な経験だった。○ 報告会に向け、チームの3名とSAの計4名での話し合いの中、視野が狭まり大変だったが、今回の報告会を通し、他班の発表を聞き、こういう発想もあったかと気づきが得られた。○ 提案に関し、コストや実現性をネットで調べ、その分建築業という業界への理解が深まった。また、チーム活動もとても大きな経験となり、今回の授業に参加してよかった。○ 答えのない課題に答えることは難しかったが、中間発表の際、「こんなことをいうのは恥ずかしい」と思わず、意見を出して欲しい」という企業様の言葉に背中を押され、どんな奇抜な意見でも具体性を詰めて行けるのではないかと考えることができた。
企業講評 (抜粋)	<p>全体的に完全な娯楽より、住民サービスや住民の快適性といった自治体へ向けた提案が多かった印象であった。</p> <p>最初の提案の、トラックドライバーの休憩場所はとても切実なもの。私どもも自分で運送しているが、旅行者が極端に増えたためなかなかホテルがとれない状況。確かにこういう施設があればいいと思う。実際、運送会社の休憩所・待機場所にこれが採用されたことがあるので、すぐに実現可能なもの。</p> <p>スマートモジュールスタジアムに関しては、今回のサッカーワールドカップでコンテナを利用したスタジアムがあったと最近聞いた。これを先に思いついていたら凄いと思う。</p> <p>スキー場は同じようなことを考えたことがあり、国際スキー場の従業員施設としてコンテナが使用されたことがあり、これも実現可能。</p> <p>目の付け所が現実的で、もう少しつめれば、学生が“ベンチャーで施設の運営をするから市町村さん、自治体さん、補助金をフル活用してこの施設建てませんか”と、そこまでいくのではないかと思いつきながら聞いていた。</p>
担当教諭 コメント (抜粋)	<p>(アーキビジョン21、谷川企画クリアデザイン両方の発表を通して)</p> <p>●曾我教授</p> <p>今回のこの取組は、石狩振興局の皆様をはじめ、企業の皆様、学生諸君と今日一つの成果を出させていただいたが、ここまで興味深い内容になるとは正直思っていなかった。それぞれがアイデアを投げ合い、そして最後まで諦めない、そういったところで授業では得られないことを学生は経験し、お互いに次のアイデアに繋がりそうなものが見え隠れしていると。これはすばらしい取組だったなど。私は大学の中で地域連携センター長という立場でもあるが、センターとして次年度以降も同じような取組が出来れば、地元の大学が地元の企業様と一緒に課題の解決をするということはある程度できるのではないかと。しかも教育効果も高いということを実感した。</p> <p>●石田准教授</p> <p>この取組を最初受けた時、恐らく学生は相当苦戦するという予想はしていた。先月の中間報告会の際、彼らも混乱しており、それは企業様が「若者らしい、新しいものを」というところ。2社がこれまで一生懸命考えてきたことを超えなければいけないという。一方で、私や曾我は「実現可能な提案にしなければいけないよ」といい、逆に提案がどんどんシンプルになっていく。そうすると「若者の意見ではないのでは」という悩みが生じ、学生達が苦しんだところだったかなと。</p> <p>私は1, 2年で問題解決型の授業をやらせてもらっているが、目の前にお客さんがいて駄目出しをされるというのは中々貴重な経験であった。</p> <p>先ほどの企業様のコメントでは思っていることの2割くらいしかいただいていないと思うので、まだ授業としては継続することから、是非、忌憚のないリアルなコメントをいただき、残り6, 7週くらいの中で少なくとも企画会議レベルでこういう意見が出た、と言ってもらえるものになると彼ら自身の自信になり経験にもなると思う。</p>